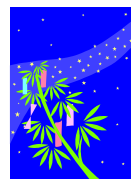


# パモジヤ



～未来のきりん探しの旅に出よう！～

2005年7月号

## 今月の INDEX

- 1) タンザニア援助のツボ「予算演説」
- 2) 耳より！ JICA 研修情報
- 3) 事務所からのお知らせ
- 4) 特集： タンザニア中等学校および大学事情

### 1) タンザニア援助のツボ

「予算演説」

本田企画調査員

新聞などご覧になった方も多いかと思いますが、先月 6 月 7 日にタンザニア予算国会が始まりました。翌日の 6 月 8 日には、ムランバ財務大臣が、新年度政府予算案(概要)についての予算演説を行い、その後の国会審議を経て承認されました。ちなみに、ご存知の通り、タンザニアの政府予算年度は、4 月 1 日に始まる日本の予算年度とは異なり、7 月 1 日から翌年の 6 月末となっています。

今日は、このタンザニア新年度予算(2005/06 年度・以下今年度予算と呼びます)について簡単にご紹介したいと思います。さて、政府予算...??。タンザニアで活動しておられる多くの皆さん、特に各地で活動されている JOCV の皆さんには、なにかとても縁遠い話と思われるかもしれませんが、でも、皆さんのカウンターパートの給与や手当て、皆さんの滞在している政府提供住居の維持費(先方負担分)、配属先の施設の整備費用や事業活動費などは、すべてこの政府予算により原則決められているということを考えれば、予算の話は皆さんの活動に陰に陽に影響を与えているということが言えます。

それでは、今年度予算を見てみましょう。まずは来年度の政府予算総額。政府が今年どのくらいのお金を集め使おうとしているのでしょうか？ ムランバ財務大臣は、政府予算総額として約 4.2 兆シリング(日本円に換算するとおおよそ 4,200 億円くらい)を見込んでいることを予算スピーチで報告しました。ところで、このタンザニア政府予算はどの程度の規模なのか？ 参考までに日本政府の予算規模を見てみると、平成 17 年度は約 82 兆円！ 全く比較になりません。むしろタンザニアの政府予算は少々大きめの日本の地方自治体と同じくらいで、例えば人口 60 万人の静岡県浜松市の平成 17 年度当初予算は 3,710 億円でした。(事務所星企画調査員からの情報。ありがとうございました!) ちなみに、この今年度予算と、昨年度予算(約 3.3 兆シリング)を比べると、厳しい財政状況にも関わらず約 2 割増というかなり大きな増額となっています。色々な理由が考えられるでしょうが、一部には 10 月の総選挙を意識した事業が色々予算化されているのではとの憶測も聞かれます。

さて、タンザニア政府は、この約 4 千億円をどうやって捻出するのでしょうか？ 今年度予算の歳入計画によれば、このうち、おおよそ 6 割は国内の税金(所得税、付加価値税(VAT)、法人税や関税等々)などで賄われる



予定になっています。近年、政府国税庁(Tanzania Revenue Authority)は徴税強化を図ってきており税収も増えてきていますが、それでも歳入の約 4 割は外国援助に頼っているのが実情です。また、施設整備などの費用である開発支出の財源となると 7 割以上が援助資金となっています。このようにタンザニアの援助依存は大きな問題です。しかし、教育、保健、水や道路など政府が今後費やさねばならない膨大な費用に対し、そもそも国の経済規模が小さい上に、国民の多くが課税の難しい自給自足的農業や零細自営業(インフォーマルセクターとも呼ばれる)に従事していること、さらには国際通貨基金(IMF)や世界銀行の“助言”もあり政府が赤字国債の発行を制限していること(平 17 年度日本政府歳入の約 4 割は公債発行によるもの)などを考え合わせると、今後当面の間は援助に頼っていかざるを得ないのがこの国の厳しい現状と言えます。

では、来年度、どのように政府はお金を使っていこうとしているのか、政府予算の歳出計画を少し見てみましょう。政府歳出は、まずおおまかに人件費、債務返済費用や維持・管理・事業運営費用などの経常支出と、施設整備費用等の開発支出に分けられています。本年度予算では前者に全体の約 67%、後者に約 33%が割り当てられています。また、近年進められている地方分権化の流れに沿って、前者の経常支出の約 17%は県(District)への交付金等となっています。

分野別の歳出計画を見てみましょう。今年度予算は、新たに策定された政府 5 ヵ年開発戦略である国家成長・貧困削減戦略(National Strategy for Growth and the Reduction of Poverty、略して NSGRP、あるいはスワヒリ語タイトルの頭文字で Mkukuta)を反映した初めての予算となっています。この新しい開発戦略では、今後政府が取り組む優先施策として、経済成長と所得貧困の削減(Growth and Reduction of Income Poverty)、生活の質と社会的厚生 of 改善(Improvement of Quality of Life and Social Well-Being)、良い統治と政府の説明責任強化(Governance and Accountability)という三つの柱(clusters)が示されていますが、ムランバ財務大臣の予算演説では、新年度歳出計画ではこれら優先施策に関わる政府事業に予算の 5 割を割り当てることを表明しました。また、ムランバ大臣は、昨年に引き続き公共事業、保健、教育、農業や給水の各分野へも重点的に予算が配分されている他、今年 10 月の総選挙の実施費用や HIV 感染者(エイズ患者)への抗 HIV 薬の配布やマラリア・結核対策費用などへも重点的に予算を配分していくことを報告しました。なお、例年のごとく、各分野(セクター)予算については、新予算年度が始まった現在も国会で審議が続けられています。

さて、読者の中には、予算計画はともかく、タンザニア政府がその予算に従ってきちんとお金を使っている(執行している)か否かがもっと重要なのだ! というご意見もあるかと思います。おっしゃる通りです。その点については別の機会にご紹介したいと思います。それでは今年度予算の話はこの辺で。

予算の詳細(財務大臣演説、省庁別予算配分、地域別配分など)については、タンザニア国会 Website 予算ページ(<http://www.parliament.go.tz/bunge/budget/2005>)からダウンロードすることが可能です。

## 2) 耳より! JICA 研修情報

現時点でタンザニア政府に候補者の募集をかけている、日本で行われる研修コースをリストアップしますので、カウンターパートに研修の機会を与える場になれば幸いです。なお、紙面の関係上、研修コース名と研修期間、応募締め切り日のみを記載しますので、詳細な情報が必要な方は事務所の加藤もしくはムソフェまでご連絡ください。以下のコース以外でも研修に関して質問がある場合には、いつでもどうぞ。なお、研修に応募するためには、履歴書、健康診断書およびカントリーレポートの作成、その後人事院のスタンプをもらう等多くの作業と時間が要求されます。ですからなるべく余裕を持って連絡をいただくと助かります。



なお、留意点は以下のとおりです。

- ・ どのコースも基本的にはタンザニア政府の人が対象です(民間会社で働く人は対象になりません。一部のコースは NGO の参加も OK なものもあります)
- ・ どのコースにも応募にあたっての資格要件があります。この要件を満たさないと応募することはできません(特に年齢制限には要注意)。
- ・ どのコースも 1 名(もしくは 2 名)の枠に対し、4~5 名程度の応募がありますので、応募をしたからといって、受かる保証はありませんので、ご注意を。

#### 現在募集中のコース(コース名、研修期間、応募締め切り日の順)

- ・ General management for regional development and planning 9/27-11/19, 7/18
- ・ Planning and management of national mapping and surveying 10/4-7/22, 7/13
- ・ Seminar on policy of industrial safety and health 10/2-11/5, 8/1
- ・ Traffic police administration seminar 10/25-11/27, 8/15
- ・ Clinical laboratory technology 11/6-2/4, 8/11

#### 帰国研修員の声 (Ms.Hiltruda Chrisant TEMBA)

加藤所員



小幡所長に帰国報告をするテンバさん

6 月 22 日、日本の国立保健医療科学院において公衆衛生の修士課程を修了し、日本での 13 ヶ月に渡る長期研修から帰国した長期研修員 Ms.Hiltruda Chrisant TEMBA の帰国報告会が行われました。テンバさんは日本で疫学、国際保健等の講義を受講し、「性感染症対策」についての研究論文をまとめました。日本で学んだ内容をそのままタンザニアに取り入れることは困難であるけれども、タンザニアに適用させていけるだけの多くのものを習得できたということです。また、日本での生活は言葉(日本語)、食事等に戸惑うことはあったようですが、次第に慣れ、日本の各地(大阪、神戸、福島等)を訪問し、日本人との交流を楽しむことが出来たとのことでした。今後はタンザニア保健省での NACP (National AIDS Control Programme) の業務に従事していく中で、JICA 事業との重要な連携役としての活躍が期待されます。

### 3) 事務所からのお知らせ

#### 今月の危機管理上の特記事項

小林所員

自宅に居て、一番頼りにするのが警備員。でも過度に頼りすぎていませんか？

最近の犯罪事例を見ていると、なんとなく”警備員も怪しいよなぁ”とつい思いってしまう事例があります。また、実際に警備員が犯行におよんだ事例もあります。警備員が常に気を張って仕事をし、なおかつ泥棒に変身しないための Tips を紹介したいと思います。

- ・ 時々外を覗いて仕事をしているかチェックする。していない場合は、その時にきちんと指導する。
- ・ 外出するときは、帰ってくる時間・日にちを伝えない。いつ帰ってくるか解らない状況において緊張感を持たせましょう。
- ・ 家の中をのぞかれないように窓のカーテンを閉じたり、貴重品の上には覆い布を被せたりしましょう。警備員は業務上家屋に近づけるため、一層の注意が必要です。特に鍵は目につかないところに保管しておく必要があります。ちょっとした隙に盗まれ合鍵を作られてもしたら、家は張りぼてと同じ状態になってしまいます。
- ・ 個人契約の警備員や、会社派遣でも固定した警備員が勤務している場合は、警備員の自宅などを確かめておく、できれば実際に訪問することで、警備員との信頼関係を築くと共に、いざというときに追跡できるという点で有効です。車をお持ちの方は、警備員のシフトが終わったときに、出掛けのついでに送っ



ていなんてことをすると自然に家を把握することができます。

- ・ 警備員も一人だと不安を感じることも多いので、要望があれば杖・パチンコ・弓などの武器を貸し与えることも一案です。また、警備犬を配置しておくことも警備員に安心感を与えることになります。ただし、重火器を与える或いは警備会社から支給させるというのは、絶対にお勧めできません(強力な武器になってしまう可能性があるためです)。
- ・ 要望があれば寒い夜のお茶の支給など、負担にならない範囲で便宜を図ってあげるのも友好関係を築く上で有効です。ただし、過去に夜間病状を訴えてきた警備員に薬をあげようとしてグリル扉を開けたところを侵入され、家財道具を盗られたという事例もありますので、夜間の物の授受はグリル越しにした方がよいでしょう。

#### <今月の犯罪被害報告>

5/2 日頃	モロゴロ	長期の留守中に、勝手口から侵入され、物品が盗まれる。裏口のグリルドアのカギをかけ忘れていた。	戸締りは厳重に。
5/16 深夜	マサシ	賊が棒を使って窓からテーブルの上の携帯電話を盗ろうとしていたところを気付いて、大声を出して撃退した。	窓から見えるところに貴重品を置かないこと。カーテン代わりにカンガをピンで留める。或いは棚や貴重品置き場には必ずカンガで覆いをする習慣をつけるとよい。
6/3 夜	TRC(ドドマ-ムワンザ間)内	就寝中、枕元においていたミニバッグを、おそらく停車中に窓から盗られる。	寝台車やホテルに宿泊する際は、まずドアや窓のカギのかかり具合をチェックし、カギがかからない場合は、部屋を代えてもらう、夜は眠らないなどの対策が必要。なので、慣れない自動車旅行は止めたほうが無難かも。
6/11 夜間	モロゴロ	自宅に滞在中、駐車場の車両内からパソコン等を盗難された。	自宅敷地内に車両を駐車する場合であっても、貴重品は家屋内にて保管する

#### <セレンゲティ国立公園の安全対策措置>

ご存知の通り5月末に安全対策巡回指導調査団が当国を訪問していましたが、その後協議の結果、セレンゲティ国立公園の安全対策措置を従来の”業務目的・業務目的外共に安全対策 T 要協議”であったところが、”注意喚起”に緩和する方向で本部と合意しました。ただし、同時に当国訪問時の事務所におけるブリーフィングを徹底するように指導がありましたので、お知り合いの方が任国外旅行に来る場合、必ず事務所に立ち寄りよう助言するようにお願いいたします。

#### 協力隊関連

真鍋調整員

5月16日から19日の期間、所長会議及び調整員会議に出席しました。所長会議は、5月15日から18日の午前中まで行われ、調整員会議は実質1日半の開催ではありましたが、各国の調整員と、さまざまな意見を交換でき、有意義な時間を過ごすことができました。大半は、協力隊事務局からの今後の方針や制度の改定についての説明を受けた後に、質疑応答を含めた上で、実施へ向けての問題点などを話し合いました。会議の場で話された主な内容は、以下のとおりです。

#### <アフリカ重視(隊員増)>

今後もアフリカ重視の方向で、ボランティア事業は進められていきます。また、グループ派遣、短期隊員の活用を積極的に検討するよう説明を受けました。

#### <協力隊事業要請案件プログラム化の推進>

プログラム化の推進は、今後も続けていく方針です。JICA事業における各隊員の位置付け及び派遣の意義を隊員に対して、また対外的に示すという意味でプログラム化は重要であるとの説明を受けました。セクター方式(重点分野を意識した要請の開拓)で、要請を開拓している事務所は、タンザニア以外にもザン



ピア、ケニアが挙げられます。ウガンダも国別重点分野が決まり次第、セクター毎の要請を開拓する予定とのことです。

#### < 隊員支援経費の制度改定(予定) >

隊員支援経費の名称が、隊員活動経費という名称に変わる予定です。名称の変更に伴い、同経費の活用方法も柔軟となります。従来の抑制的な経費の使用ではなく、積極的に隊員の活動を支援していくものとして、新たに制度の改定が行われるようです。

#### < 協力隊事業評価 >

第一次中期計画に向けて、試行的に事業評価を行っています。これは、個人評価ではなく、あくまでも事業評価であり、今後も、評価手法については検討の上、より良いものとしていくとのこと。

#### < 安全対策・交通安全 >

犯罪遭遇件数は、南米についてアフリカは2番目です。また、過去にあった犯罪を分析すると6割は予防可能であり、9割は注意不足であるとの発表がありました。

### 貧困モニタリング関連報告書の発表

山内企画調査員

(1) 2002/3 年参加型貧困アセスメント (Participatory Poverty Assessment) 報告書大衆版 Tackling vulnerability An Approach to Poverty Reduction

2002/3年に当事務所および他ドナーの支援の下、参加型貧困アセスメント調査が行われ、主要報告書が発表されたことは既にご連絡していますが、その大衆版がスワヒリ語、英語版が発表されました。ここでは環境、マクロ経済環境、ガバナンス、保健・HIV/AIDS、年齢、文化慣習などが人々を貧困に陥らせる(脆弱にする)場合に人々はそれに対してどのような対応をとっているのか、そして対応を取るためには何が不足しているのかについて、全国30サイトでインタビュー形式など参加型で行った調査結果を分かりやすい言葉で説明していますので、貧困層の



左:2003/4 HIV 統計調査報告書(ティンガティンガのおしゃれな表紙です)。真中: 2004/5 人口保健調査(こちらはうって変わってシンプルな表紙です)。右: 2002/3 参加型貧困アセスメント (Participatory Poverty Assessment) 報告書大衆版(写真はスワヒリ語です。絵も多用されていて、分かりやすいです)

生活の実情を分析したものとして大変興味深いものです。皆様の職場でも活用されてはいかがでしょう? スワヒリ語、英語版ともに隊員調整員班(依田さん)、または山内まで言っていただければコピーお見せできます。

(2)2004/05年 人口保健調査(Demographic Health Survey)

2004年に世帯調査が行われた人口保健調査の暫定結果が発表されました。正式報告書は更なる分析を経て今年10月頃発表される予定ですが、注目すべきは前回1999年に行われた同種の調査(Tanzania Reproductive and Child Health Survey)の結果と比べて、乳幼児死亡率が大幅に下がっていることです。

乳児死亡率(出生1,000人当たり)は99.1(1999年)から68(2004年)へ、

5歳未満時死亡率(出生1,000人当たり)は147(1999年)から112(2004年)へ下がりました。

今後病因別の死亡率の分析など更なる分析が行われる予定ですが、先日開かれた結果発表では、この死亡率の低下の原因はマラリア疾患率の低下によるもので、蚊帳(特に殺虫剤の付いた)の使用の普及などの政府の活動の効果が上がっていること、また地方分権化によって県レベルにおいて今までより多くのお金が保健サービスの現場で有効に使われるようになった効果などとされ、保健省に賞賛の声があがっていました。また、スリランカなど他の開発途上国でも近年行われたDHSでも、これらの死亡率が低下してきていることが報告され



ていました。

### (3)2003/04年 HIV 統計調査

HIV 統計調査も2004年に実施され、今年4月に報告書が発表されました。従来タンザニアにおいてはHIV感染率はHIV患者への輸血ドナーや妊産婦治療受診者の中から調査して計算されていましたが、この調査では初めて世帯統計調査として行ったことが特徴で、15-49歳のHIV感染率は女性で8%、男性で6%と女性が多くなっています。また、教育レベル、所得が高くなるほど感染率が高いと分析されており、その理由として彼らは他の人々との接触の機会が多くなるためとされています。更に州別ではムベヤ(13.5%)、イリンガ(13.4%)、ダルエス(10.9%)が多く、キゴマ、マニャラ(共に2%)が最低で、地域差が大きいことも指摘されています。

### 国際協力フォトコンテスト

川村所員

JICAでは開発途上国の人々の生活文化、自然を撮影した写真や国際協力の現場を紹介する写真を募集しています。写真を通し、タンザニアを含む開発途上国の現状と国際協力のへの関心を深めてもらうことを目的にしていますので、現場で活躍される皆様からの応募をお待ちしております。

募集期間:2005年7月1日(金)~2005年9月15日(木)(当日必着)

賞:JICA 理事長賞(1点) 表彰状、賞金10万円および副賞、他

応募資格:国際協力や国際交流の活動に興味、関心をお持ちの方。またはJICAやNGOが行う国内外の協力・交流現場で活動されている方、あるいはこれから活動してみようとお考えの方。

備考:デジタルカメラでも応募ができます!

その他の詳しい募集要項および応募用紙については、事務所で保管しておりますので、関心のある方は川村まで照会ください。また、過去の入賞作品はJICAのホームページ(<http://www.jica.go.jp/>)でご覧になれます。

### JICA 関係者カリブ 藤原専門家(指導科目:地下水開発/地方給水、タンザニア派遣期間:2005年4月21日~2006年3月5日)

編集者の都合で掲載が遅れ恐縮なのですが、以下藤原専門家からのメッセージです。

「今年4月下旬より来年3月初旬までの予定で、「水・家畜開発省」に派遣された短期派遣専門家の藤原邦夫です。2002年10月下旬より1年間ほど「タンザニア水省への長期派遣専門家」として活動した後、念願だった「弓道三昧の日々」を送りつつ、時折予備調査役務提供業務やら、コンサルタント会社の補強メンバーとして、海外技術協力の仕事についていましたが、再びタンザニアにやってくるチャンスを得ましたことを、至上の喜びとしています。



業務は、「村落給水」と給水水源の「地下水」の開発とに重点を置いたものです。主たるカウンターパートは地方給水局長と3次長、水資源局地下水部門担当次長ですが、そのほかに2局の職員ほぼ全員約40名、水資源研究所・水質ラボ所長、9流域管理事務所長、20州給水事務所長、96県給水事務所長、井戸・ダム建設公団の総裁部課長等を含め180名くらいの全員がカウンターパートであるという認識の下で業務を進めております。前回の長期専門家業務の引き続きといった形です。

今年は、現在2件の「村落給水/地下水開発」にかかるJICA開発調査が進行しているほか(「首都圏周辺」「ムワンザ・マラ」)、8月には7州にまたがる「内部収束地域地下水開発管理」にかかる新たな開発調査も開始される見込みです。また、リンディ・ムトラ州においては64村落を対象にした村落給水の無償資金協力事業が進行中です。これらの援助プログラムを、水セクター担当職員の松下さんをアシストしながらモニタリングを行うことも私の任務の一つです。当国水セクターにおいて4件もの大型援助案件が同時進行するというのはおそらくタンザニア事務所開設以来初めてのことと思いますが、これらの案件を一人の担当者が捌くのは大変な



ことです。私は実にタイミングよく派遣されたものだと思っています。

住居は、勤務先である Ubungo の水省コンパウンドに程近い Landmark Hotel の一室を長期滞在契約しました。任期一杯ここに住むことになります。ホテル駐車場の片隅に「矢場」を作って、土日の朝と、週日の 1~2 日は夜明け前の弓の修練を楽しんでおります。

これからの 8 ヶ月余、微力ながら精一杯務める所存です。皆様どうぞ鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。」

#### 4) 特集: タンザニアの中等学校および国立大学

小林、川村所員

今回はタンザニアの中等学校および国立大学の一般的な概要を特集します。

はじめに・・・

O レベル 12.9%

A レベル 2.1%

国立大学 0.08%

これが何の数字だか分かりますか？ 正解は就学率です。例えば皆さんの周りにタンザニア人 1,000 人がいるとしたら、なんと国立大学に入学した人はその中でたったの 8 人しかいないということです。(ちなみに日本は 2003 年の統計では大学就学率は 40.5%です)

##### (1) 中等教育について

基礎教育(就学前、初等、中等)は、タンザニア本土とザンジバルで制度が異なるのですが、ここでは本土の教育制度について説明します。

中等教育は、前期(Ordinary-level)4年と後期(Advanced-level)2年に分かれており、卒業するとそれぞれ CSEE(Certificate of Secondary Education Examination)と ACSEE(Advanced-CSEE)という証書を得ることができます。これらの証書には卒業試験の結果が明記されており、進学や就職のとき必ず参照され、人生を決める一枚といっても過言ではないかもしれないものです。

従来は、中等教育は民族融和を志向するニエレレの政策により寮制校が主体であったのですが、中等教育が普及してきている現状に合わせて、昨年度7月から O-level は通学制を中心に据えるという方針転換をしています。小学校がほぼ全て公立であるのに対して、O-level 校は 1080 校中 334 校(31%)が、A-level 校は 211 校中 128 校(61%)がそれぞれ私立となっており、上位になるほど私立の占める役割が大きくなっていくという傾向があります。

中等学校教師の資格は、O-level は Diploma(A-level 卒業後、2年間の教員教育を受ける)以上、A-level では教育学士以上になりました。従来は、学士であれば全て教員となることができましたが、昨今の調査研究により教育学を学んだ者のほうが、生徒の参加を促した授業の組み立てができるという結果が出たための政策変更になりました。

授業は原則英語で行われ、科目数は O-level の最初の2年間には必修9科目+選択、次の2年間では必修5科目+2科目以上の選択科目となっています。A-level で既に生徒は専門性を磨くことが期待されており、主に3教科に絞って学習することになります。その教科はコンビネーションと呼ばれており、HGE、HGL、HGK、HKL、HLF、EGM、PCM、PCB、CBG、PGM(H:歴史、G:地理/地学、E:経済、L:英語、K:スワヒリ、F:フランス語、M:数学、P:物理、C:化学、B:生物)の10種類のいずれかから選ぶことになります。

なお、公立の授業料は通いの場合は年間 20,000/-、寮の場合は 70,000/-になっています。

##### (2) 国立大学について

2005 年現在タンザニアには国立大学(今回は私立大学、College と呼ばれる短期大学および職業訓練



校は除外しています)が5つあります。簡単ではありますが、5国立大学の概要を以下の表にまとめてみました。

	University of Dar es Salaam	Sokoine University of Agriculture	Mzumbe University	Open University	State University of Zanzibar
設立	1970	1984	2002	1993	1999
場所	Dar es Salaam	Morogoro	Morogoro	Dar es Salaam	Stone Town
生徒数	8,492(2002)	2,096(2002)	1,065(2002)	5,351(2002)	303 (2002)
年間授業料*(Tsh)	1,000,000/-	654,600/-	980,000/-	600,000/-	635,000/-
モットー	Hekima ni Uhuru (Wisdom is freedom)	Ardhi ni Hazina (Land is an asset)	Tujifinze kwa Maendeleo ya watu (Let's learn for the community development)	なし	なし
学部	(1)Law (2) Arts and Social Science (3) Commerce and Management (4) Education (5) Civil Engineering (6)Mechanical and Chemical Engineering (7)Science (8) Aquatic Science and Technology	(1)Agriculture, (2)Forestry and Nature Conservation, (3)Veterinary Medicine, (4) Science,	(1)Law, (2) Commerce, (3) Science and Technology, (4)Social Science	(1)Arts and Social Science (2) Business Management (3) Education (4) Law (5) Science, Technology and Environment Studies	現時点では1学部のみ (1) Education, Arts and Scienceのみ。 将来的には (2) Engineering (3) Business (4) Agriculture (5) Health and Medical Sciences (6) Law も開講予定。
他の組織	(1) Institute of Development Studies (2) Institute of Kiswahili Research (3) Institute of Marine Science (4) Institute of Resource Assessment (5) Institute of Mass Communication and Journalism (6)Center for Continuing Education (7) Centre for Entrepreneurship Development	(1)Institute of Continuing Education, (2)Development Study Institute, (3)Centre for Sustainable Rural Development, (4)Computer Centre, (5) SUA Pest Management Centre,	(1) Institute of Development Studies, (2) Institute of Public Administration, (3)Institute of Continuing Education	(1) Institute of Continuing Education (2) Institute of Educational Technology	(1) Institute of Kiswahili and Foreign Language, (2) Institute of Continuing Education
備考	タンザニアで一番古い大学	1999年よりJICAが地域開発分野でプロジェクトを実施。	もともとは地方公務員の養成所としてスタート(1972年)	放送大学のようなもので、22の地方支部がある。	外国人を対象としたスワヒリ語短期コースが有名。

\* 授業料については、1年生の一番安い学部のを記載しています。寮費や、テキスト代、組合代等は別です。

### (3) 中等学校および大学にまつわる数字





- ・ 中等学校においては各学年平均すると女性が占める割合は45.6%です。もう少し細かく見るとForm1における男女比は1:0.93(女性が全体に占める割合は48.1%), Form4は1:0.80(44.4%), しかしForm6になると1:0.50(男性の半分! 全体に占める割合は33.3%)と下がっていきます。妊娠等による女性のドロップアウトがそれだけ多いということです(2004年 Poverty and Human Development Reportより)。一方で大学を管轄するタンザニア高等教育省の統計によると大学(短期大学含む)における女性の占める割合は全体の23.3%(2001年)とのことです。
- ・ Aレベルを終了した人の内、30%が大学に進んでいます(高等教育省による)
- ・ 大学入学平均年齢は26歳(高等教育省統計による)。社会人入学が多いのが理由です。
- ・ 中等学校におけるCSEE(上述)の不合格率12.0%(2003年度)ですが、2年前(2001年)を見ると22.6%で、下がってきています(2004年 Poverty and Human Development Reportより)。
- ・ 貧困削減戦略(MKUKUTA)には中等学校および高等教育関連の目標が以下の通り記載されています。
  - 2003年時点で大学および短期大学に通っている人は28,910人、これを2008年までに50,000人にする。
  - 中等教育はたくさんの目標が掲げられています。いくつか例を紹介すると・・・
    - ・2010年までに14 - 17歳の少なくとも半分の男女がOレベルに就学する。
    - ・2010年までに少なくとも60%の男女がStandard VIIの試験に合格する。
    - ・2010年までに少なくとも25%の男女がAレベルに就学する。
    - ・少なくとも70%の男女がForm IVの試験でDivision I-IIIで合格する。
    - ・90%の小学校と中学校に2010年までに能力と技術のある教師が適切な数で配属される。

パモジャでは引き続き皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。特に特集ページでは援助分野に関係なく、タンザニアのさまざまな分野における一般的な概要をご紹介できればと思っています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエスト、投稿など、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

Email address: Kawamura.Yasuyo@jica.go.jp



